別紙２

令和６年度日本遺産点数評価プロセス
採点結果及び評価結果

STORY #006
「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜

006　「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜

006

評価表　採点結果

評価項目	評価の観点
（1）組織整備 ・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組み ・地域間連携の仕組み	・行政だけでなく、文化関係者や観光関係者（DMO 等）、民間事業者も参画した組織体制が構築されているか。 ・各関係者の役割は明確化されているか。中核となる組織又は個人が設定されているか。 ・組織の自立・自走に向け、継続的に事業を実施するための体制・財源は明確化されているか。 ・ふるさと納税など資金調達の実施にあたって、日本遺産事業に活かされる形となっているか。また、継続的に事業を実施するための財源として十分なものとなっているか。 ・（シリアル型において、）地域間で連携することにより、ストーリーの体験をより促すような相乗効果が期待される体制となっているか。
採点理由・コメント	■ 長良川流域という地の利、これを強く意識した「信長公のおもてなし（戦略）」を事業化するという明確な意思が感じられる。ORGAN（連携DMO）の活動は、ここまでに大きな成果を上げているが、これらの活動に行政がどのように関わり支援していくのかという地域全体のマネージメント体制の構築が今後の課題であると考えられる。 ■ 現行の体制に加え、新たにCMO（最高マーケティング責任者）の外部登用を計画するなど、ブラッシュアップが見られる。 ■ 体制は整備されていると評価できる。これに基づいた実効性のある動きが期待される。 ■ 現地でのヒアリングでも議題に上がったように、官民連携のさらなる充実が望まれる。
（2）戦略立案 ・地域コンセプト ・長期的戦略 ・マーケティング調査・戦略	・計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行っているか。 ・日本遺産の趣旨を踏まえ、各種行政計画と日本遺産の関係性を整理し、位置付けているか。 ・将来像の実現に向けた短期的・長期的な戦略の立案を行うため、ターゲットの設定を行っているか。 ・各事業の効果を把握し改善を行う仕組みが整備されているか。 ・日本遺産を活用し、実際に経済効果の創出までつながる取組が具体化された戦略が立案できているか。 ・地域の持続可能性を高めるため、日本遺産を活用していくというビジョンが定められているか。
採点理由・コメント	■ 前回総括評価の結果を受けて、新たな計画のもとに体系的な事業ができていると評価できる。特に観光庁レガシー形成事業への取組、長良川DMOのエリア全体での活動の活性などにより、観光入込み数、インバウンド客数拡大、高付加価値製品の売り上げ増等、成果が創出されていると評価できる。ただ「おもてなし」の用語の実態的意味、顧客への訴求の仕方は工夫されたい。 ■ 今後、欧州 6 か国のファムトリップ等を通じて、新たなターゲットを明確にされたい。 ■ 戦略立案について、具体的な調査に基づいた明確な計画となったと評価できるが、解説整備の方向性として、QRコード等のみに頼るのではなく、解説案内板の整備を含めて多様な方法を準備するよう検討されたい。 ■ じつに豊かな「整備」・「観光事業化」が計画され、実施されている。ただ、それらを「信長公のおもてなし＝精神の体感」という将来像との関連、すなわちそれを持続的かつ体系的に実現していくための戦略に合理的に位置づけられるよう、引き続き検討を深めていただきたい。

評価表　採点結果

評価項目	評価の観点
（３）人材育成 ・地域プロデューサー ・地域プレーヤー （ガイド人材を含む）	・地域内で中長期的に事業に携わる人材の育成・確保ができているか。 ・外部の専門家によるコーチングや大学との連携による知見・ノウハウの提供、学校教育との連携等が行われているか。 ・総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーや事業実施を担う地域プレイヤーの組織化等が行われているか。 ・地域で活躍している人材・事業者との連携等が図られているか。 ・単なる観光ガイドではなく、ストーリーを来訪者に伝えるためのガイド人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。
採点理由・コメント	■ 優れた地域リーダーの存在が大きいが、地元のプレイヤーのさらなる掘り起こしと協働の体制づくりに尽力してほしい（ORGANは、今日までの活動が認知されるまで10年以上の長い年月がかかっている）。 ■ 人材育成に関して、多方面で実施してきた実績を継続する計画である。 ■ 全体として、人材育成に対する具体的な動き方をさらに充実して取り組まれたい。
（４）整備 ・ストーリーを伝える仕組み ・サブストーリーの広がり ・構成文化財の継承	・ストーリーの体験に必要となる拠点や構成文化財等における受入環境整備（解説や案内の整備・多言語化等）が行われているか。 ・ストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等が整備されているか。 ・実施する事業にあわせて、宿泊施設や交通アクセス等の面的な整備が行われているか。 ・体験に直結するストーリーの一部についてサブストーリーを抽出して更に深く魅力を整理するなど、地域内外の人々に魅力が伝わるよう取り組んでいるか。 ・博物館をはじめとした地域の歴史・文化が集積している施設において、ストーリーの理解を促すための環境整備がされているか。 ・ストーリーを通じ、外国人観光客も含めた来訪者に地域の歴史・文化の本来の価値を理解してもらうため、わかりやすい解説を行っているか。 ・来訪者が地域に点在する拠点や構成文化財等を円滑に周遊できるような案内が整備されているか。
採点理由・コメント	■ 日本遺産ストーリーやその価値・情報を一括して伝えられるビジターセンターの早期の整備を期待したい。 ■ 一定の整備が実施され、さらなる整備拡充が検討されているなど、動き出していると感じられる。 ■ すでにある観光資源を（鵜飼など）利用しているだけで、それがなぜ「おもてなし」だったのか伝わりにくい。「おもしろい」というだけではおもてなしではない。信長の政治戦略まで伝えてこそストーリーが伝わる。

評価表　採点結果

評価項目	評価の観点
（5）観光事業化 ・ストーリーの体験 ・経済効果の把握・創出 ・商品化の体制	・構成文化財を活用し、ストーリーを体現するような商品開発や産業の創造を行っているか。 ・地域内外の人々にストーリーを体験してもらえるようなガイドツアー、体験コンテンツ、関連商品の販売等を行っているか。 ・各事業の収益性及び継続性は見込めているか。地域への波及効果が生じているか。 ・経済効果につながるような日本遺産を活用した観光コンテンツの造成に取り組んでいるか。 ・造成した観光コンテンツを通じて生じる経済効果について、適切に把握できているか。
採点理由・コメント	■ もともとこのエリアの強いコンテンツであった鵜飼いや地場産品のブラッシュアップとともに、これらの事業と「信長公のおもてなし」というコンセプトとの関連性を「見える化」されたい。またかつて信長が設えたという「迎賓館」のコンセプトを、どこかで実現されるよう期待する。 ■ 多くの実績があり、かつブラッシュアップを含めた計画となっている。今後も「信長公のおもてなし」ならではの事業を追求してもらいたい。 ■ きちんと計画され、実行方法の想定も具体的なものとなっている。
（6）普及啓発 ・学校を通じた普及活動 ・地域での高い認知度	・地域の児童生徒がストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供しているか。 ・地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、地域住民への継続的な普及啓発を実施しているか。 ・地域内の認知度を向上させていくにあたって、対象や水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ これまでの実績として、日本遺産事業に対する地域コミュニティーの認知・関心がやや弱く、観光面とともに、地域内部を盛り上げる手法を明確にされたい。 ■ 普及事業についても、一定程度実績があり、これまでに不足していた点についても展開する計画となっている。 ■ 現地調査では学校教育において日本遺産のストーリーがどのように説明されているかについて明快な答えが得られなかった。日本遺産ストーリーの咀嚼がうまくできていなかったからではないかと考える。今後の副教材の製作に際しては、何を伝えるべきか十分検討されたい。 ■ 計画通りに進められることを期待したい。
（7）情報編集・発信 ・継続的な情報発信体制 ・顧客とのエンゲージメント	・ストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる情報についてホームページ等において情報発信を行っているか。 ・ストーリーや構成文化財、体験コンテンツ等の情報について、継続的かつ効果的な情報発信ができているか。 ・ホームページ等での情報発信を行うにあたって、PV 数等の水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 多様な情報発信がある。一方、そうした情報発信から、どのように誘客につなげるかという点の検討は、今後さらに深める余地が残ると考えられる。 ■ 特にインバウンドに対する発信力、発信の工夫が十分とは言えない。パンフレット作成や現地プロモーションも大切であるものの、HPをはじめとしたWEBでの発信力、わかりやすさが今後のポイントになると考えられる。

点数評価プロセス　採点結果及び評価結果

採点結果	39点 ※　最高点及び最低点を除いた平均点。
評価結果	重点支援地域に認定

令和６年度日本遺産点数評価プロセス
採点結果及び評価結果

STORY #012
六根清浄と六感治癒の地　～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（1）組織整備 ・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組み ・地域間連携の仕組み	・行政だけでなく、文化関係者や観光関係者（DMO 等）、民間事業者も参画した組織体制が構築されているか。 ・各関係者の役割は明確化されているか。中核となる組織又は個人が設定されているか。 ・組織の自立・自走に向け、継続的に事業を実施するための体制・財源は明確化されているか。 ・ふるさと納税など資金調達の実施にあたって、日本遺産事業に活かされる形となっているか。また、継続的に事業を実施するための財源として十分なものとなっているか。 ・（シリアル型において、）地域間で連携することにより、ストーリーの体験をより促すような相乗効果が期待される体制となっているか。
採点理由・コメント	■ １度目の総括評価以来、六根清浄と六感治癒を構成する三徳山と温泉・観光組合の連携体制を見直し、現在は、一体的な推進体制となっている。 ■ 守る会と活かす会の役割が明確で、地域との連携もとれている。地域プロデューサーのけん引力もすばらしい。
（2）戦略立案 ・地域コンセプト ・長期的戦略 ・マーケティング調査・戦略	・計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行っているか。 ・日本遺産の趣旨を踏まえ、各種行政計画と日本遺産の関係性を整理し、位置付けているか。 ・将来像の実現に向けた短期的・長期的な戦略の立案を行うため、ターゲットの設定を行っているか。 ・各事業の効果を把握し改善を行う仕組みが整備されているか。 ・日本遺産を活用し、実際に経済効果の創出までつながる取組が具体化された戦略が立案できているか。 ・地域の持続可能性を高めるため、日本遺産を活用していくというビジョンが定められているか。
採点理由・コメント	■ 自治体の規模も踏まえ、事業の荷い手、プレイヤーの確保は大きな課題であり、まだまだ開拓余地は大きいものの、地域プロデューサーの助言や大学（病院）との連携、広域DMOとの事業連携などで着実な事業推進体制ができている。 ■ マーケティング調査や長期的戦略の検討について、明確に事業内に位置づけられている。 ■ ターゲットをさらに明確化することが求められる。
（3）人材育成 ・地域プロデューサー ・地域プレーヤー （ガイド人材を含む）	・地域内で中長期的に事業に携わる人材の育成・確保ができているか。 ・外部の専門家によるコーチングや大学との連携による知見・ノウハウの提供、学校教育との連携等が行われているか。 ・総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーや事業実施を担う地域プレイヤーの組織化等が行われているか。 ・地域で活躍している人材・事業者との連携等が図られているか。 ・単なる観光ガイドではなく、ストーリーを来訪者に伝えるためのガイド人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。
採点理由・コメント	■ フランスのラドン温泉リゾート、ラマレー・レ・レバン町からの国際交流員はすでに１２代となり、その一人は観光協会事務局長として国際交流にも活躍している。温泉とその歴史ストーリー（日本遺産）を世界に普及するモデル的な活動である。 ■ すでに地域で活躍する人材が一定数いるが、そのスキルアップなどが計画されている。 ■ 地域での中心となる人材の育成が計画上では見えにくいが、規模の問題もあり難しいことは理解する。今後の取組に期待したい。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（4）整備 ・ストーリーを伝える仕組み ・サブストーリーの広がり ・構成文化財の継承	・ストーリーの体験に必要となる拠点や構成文化財等における受入環境整備（解説や案内の整備・多言語化等）が行われているか。 ・ストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等が整備されているか。 ・実施する事業にあわせて、宿泊施設や交通アクセス等の面的な整備が行われているか。 ・体験に直結するストーリーの一部についてサブストーリーを抽出して更に深く魅力を整理するなど、地域内外の人々に魅力が伝わるよう取り組んでいるか。 ・博物館をはじめとした地域の歴史・文化が集積している施設において、ストーリーの理解を促すための環境整備がされているか。 ・ストーリーを通じ、外国人観光客も含めた来訪者に地域の歴史・文化の本来の価値を理解してもらうため、わかりやすい解説を行っているか。 ・来訪者が地域に点在する拠点や構成文化財等を円滑に周遊できるような案内が整備されているか。
採点理由・コメント	■ 三徳山投入堂の眺望所の設置など、温泉エリアと三徳山をつなぐ活動では一定の成果をあげている。ただ、距離的にも微妙に離れており、三朝温泉の来訪者を三徳山に誘導する仕掛けはこれからの課題である。 ■ 着実に整備が進み、また計画もなされている。
（5）観光事業化 ・ストーリーの体験 ・経済効果の把握・創出 ・商品化の体制	・構成文化財を活用し、ストーリーを体現するような商品開発や産業の創造を行っているか。 ・地域内外の人々にストーリーを体験してもらえるようなガイドツアー、体験コンテンツ、関連商品の販売等を行っているか。 ・各事業の収益性及び継続性は見込めているか。地域への波及効果が生じているか。 ・経済効果につながるような日本遺産を活用した観光コンテンツの造成に取り組んでいるか。 ・造成した観光コンテンツを通じて生じる経済効果について、適切に把握できているか。
採点理由・コメント	■ 三徳山投入堂の眺望所の設置など、温泉エリアと三徳山をつなぐ活動では一定の成果をあげている。ただ、距離的にも微妙に離れており、三朝温泉の来訪者を三徳山に誘導する仕掛けはこれからの課題である。 ■ 三徳山と三朝温泉の両者を意識した観光事業化により、ストーリーを活かした事業化が試みられている。 ■ 連泊促進を計画に謳っているが、そのための魅力付け、コンテンツ開発が一番の肝であり難しいところであるので、今後に期待したい。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（６）普及啓発 ・学校を通じた普及活動 ・地域での高い認知度	・地域の児童生徒がストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供しているか。 ・地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、地域住民への継続的な普及啓発を実施しているか。 ・地域内の認知度を向上させていくにあたって、対象や水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 小・中学生から一般町民に至るまでの各ターゲットに対する普及活動が実施・計画されている。 ■ 小・中学生向けの普及啓発については、日本遺産としてふさわしい水準となるよう、さらなる取り組みが期待される。
（７）情報編集・発信 ・継続的な情報発信体制 ・顧客とのエンゲージメント	・ストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる情報についてホームページ等において情報発信を行っているか。 ・ストーリーや構成文化財、体験コンテンツ等の情報について、継続的かつ効果的な情報発信ができているか。 ・ホームページ等での情報発信を行うにあたって、PV 数等の水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ ストーリーをわかりやすく一体的に発信する点で、まだ課題は残るが、多様な媒体を利用した情報発信が実施・企図されている。 ■ ターゲットの状況（たびまえ・たびなか等）に応じた情報提供の仕方について、さらに吟味することで、情報発信の効果を高められる可能性がある。 ■ デジタル化及びHP等でのインバウンド向け対応が遅れていると見受けられる。重要な取組事項なので、より具体的な計画と、実効ある対応を期待したい。

点数評価プロセス　採点結果及び評価結果

採点結果	40点 ※　最高点及び最低点を除いた平均点。
評価結果	重点支援地域に認定

令和６年度日本遺産点数評価プロセス
採点結果及び評価結果

STORY #013
津和野今昔～百景図を歩く～

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（1）組織整備 ・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組み ・地域間連携の仕組み	・行政だけでなく、文化関係者や観光関係者（DMO 等）、民間事業者も参画した組織体制が構築されているか。 ・各関係者の役割は明確化されているか。中核となる組織又は個人が設定されているか。 ・組織の自立・自走に向け、継続的に事業を実施するための体制・財源は明確化されているか。 ・ふるさと納税など資金調達の実施にあたって、日本遺産事業に活かされる形となっているか。また、継続的に事業を実施するための財源として十分なものとなっているか。 ・（シリアル型において、）地域間で連携することにより、ストーリーの体験をより促すような相乗効果が期待される体制となっているか。
採点理由・コメント	■ １度目の総括評価以来、この３年間で地域プロデューサーを選任し、民間主導の体制と事業化がしっかりと進められている。これら民間主導の体制を、今後とも強化し、さらなる活動に繋げられたい。 ■ 課題をふまえて、組織を刷新することに成功。今後も企画面や実務面での展開が期待される。 ■ これまでは民間事業者の参画が必ずしも十分でなかったが、計画では改善されている。今後の具体的な取組が期待される。
（2）戦略立案 ・地域コンセプト ・長期的戦略 ・マーケティング調査・戦略	・計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行っているか。 ・日本遺産の趣旨を踏まえ、各種行政計画と日本遺産の関係性を整理し、位置付けているか。 ・将来像の実現に向けた短期的・長期的な戦略の立案を行うため、ターゲットの設定を行っているか。 ・各事業の効果を把握し改善を行う仕組みが整備されているか。 ・日本遺産を活用し、実際に経済効果の創出までつながる取組が具体化された戦略が立案できているか。 ・地域の持続可能性を高めるため、日本遺産を活用していくというビジョンが定められているか。
採点理由・コメント	■ 「40 年続く定型化された通過型観光モデルからの脱却」という目標のもとに、次の新しい津和野づくりの方向性が明確に示されている。過去の栄光から新しい価値のある地域づくりへの転換とその方向性がよく示されている。 ■ 一定度の戦略立案がなされているが、ストーリーをふまえた特色ある戦略、百景図の活用の具体的な計画があまり見られない。たとえば、「滞在型観光推進の街づくり事業」において「ストーリー性のある観光コンテンツによる…」というだけでは、どこでも通用しそうな企画にみえてしまう。「津和野今昔」のストーリーの本質・核を改めて振り返りながら立案してもらえるとよい。 ■ 通過型観光から滞在型へシフトさせることによりどれくらいの経済効果を得ようとしているのかの戦略が、まだ漠然としているように見受けられる。具体的な行動計画と町の規模に応じた着実な取組を期待したい。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（3）人材育成 ・地域プロデューサー ・地域プレーヤー （ガイド人材を含む）	・地域内で中長期的に事業に携わる人材の育成・確保ができているか。 ・外部の専門家によるコーチングや大学との連携による知見・ノウハウの提供、学校教育との連携等が行われているか。 ・総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーや事業実施を担う地域プレイヤーの組織化等が行われているか。 ・地域で活躍している人材・事業者との連携等が図られているか。 ・単なる観光ガイドではなく、ストーリーを来訪者に伝えるためのガイド人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。
採点理由・コメント	■ 日本遺産センターを核に、ガイド養成にも力を入れており、YU-NAなどのサイクリングガイド事業も軌道に乗り始めているが、まだまだガイドや地域プレーヤーの層が薄く、今後の大きな課題である。 ■ 一定度の人材育成が目指されている。量的向上よりも質的向上を目指すという方向は明確である。 ■ これまでは地域プレイヤーの参画が必ずしも十分ではなかったが、計画では改善されている。 ■ 地域の中心となる人材の育成が計画上では見えにくいが、自治体の規模もあり難しいところは理解する。今後の取組に期待したい。 ■ 人材育成に関連したアドバイスなど、外部の専門家との連携の充実が求められる。
（4）整備 ・ストーリーを伝える仕組み ・サブストーリーの広がり ・構成文化財の継承	・ストーリーの体験に必要となる拠点や構成文化財等における受入環境整備（解説や案内の整備・多言語化等）が行われているか。 ・ストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等が整備されているか。 ・実施する事業にあわせて、宿泊施設や交通アクセス等の面的な整備が行われているか。 ・体験に直結するストーリーの一部についてサブストーリーを抽出して更に深く魅力を整理するなど、地域内外の人々に魅力が伝わるよう取り組んでいるか。 ・博物館をはじめとした地域の歴史・文化が集積している施設において、ストーリーの理解を促すための環境整備がされているか。 ・ストーリーを通じ、外国人観光客も含めた来訪者に地域の歴史・文化の本来の価値を理解してもらうため、わかりやすい解説を行っているか。 ・来訪者が地域に点在する拠点や構成文化財等を円滑に周遊できるような案内が整備されているか。
採点理由・コメント	■ 日本遺産センター及びサテライトの整備など、基本的な受け皿整備は進んできている。滞在型の観光モデル、受入宿泊施設の整備などは、現在の流れを加速されたい。 ■ 一定の整備がなされ、また計画されている。全体として２泊３日の滞在期間をイメージした整備が企図されており、そのことは評価できるが、一方で、そこに日本遺産のストーリーがどのように関わるのか、どう活かされるのかはさらなる明確化が必要。 ■ 日本遺産のストーリー（百景）が十分に生かされた事業内容となるよう、工夫が求められる。 ■ ガイダンス施設を兼ねる日本遺産センターで「今も生きる江戸時代」がさらにわかりやすく解説されることが望まれる。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（5）観光事業化 ・ストーリーの体験 ・経済効果の把握・創出 ・商品化の体制	・構成文化財を活用し、ストーリーを体現するような商品開発や産業の創造を行っているか。 ・地域内外の人々にストーリーを体験してもらえるようなガイドツアー、体験コンテンツ、関連商品の販売等を行っているか。 ・各事業の収益性及び継続性は見込めているか。地域への波及効果が生じているか。 ・経済効果につながるような日本遺産を活用した観光コンテンツの造成に取り組んでいるか。 ・造成した観光コンテンツを通じて生じる経済効果について、適切に把握できているか。
採点理由・コメント	■ YU-NAなどサイクリングガイド事業は、まだまだ利用頻度も低く、今後の自立化にむけた取組が課題。 ■ 事業効果の検証、フィードバックについての意識が求められる。 ■ 事業の収益性について：観光客（宿泊客）からの収益増が今後の事業継続のための課題である。フランス等等欧州圏からのインバウンドについては可能性があるとの情報があるところ、この視点からの創造的な事業展開の可能性を検討されたい。 ■ 日本遺産のストーリー（百景）が十分に生かされた事業内容となるよう、工夫が求められる。 ■ 宿泊施設の計画について、外資系ホテルのみに期待するのではなく、多様なアプローチを試されたい。 ■ 観光事業化によりどれくらいの効果を出そうとしているか、またその把握方法については、さらに具体的な取組に向けた整備が求められる。
（6）普及啓発 ・学校を通じた普及活動 ・地域での高い認知度	・地域の児童生徒がストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供しているか。 ・地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、地域住民への継続的な普及啓発を実施しているか。 ・地域内の認知度を向上させていくにあたって、対象や水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 本件の場合は特に、日本遺産を中核とした郷土学習の効果が大きいものと期待される。ツアーアイデア募集も企画として優れている。これらが実施された効果を測る指標の設定も適切だが、地域アイデンティティに直結するストーリー設定であることからすると、目標値がやや物足りない印象を受ける。
（7）情報編集・発信 ・継続的な情報発信体制 ・顧客とのエンゲージメント	・ストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる情報についてホームページ等において情報発信を行っているか。 ・ストーリーや構成文化財、体験コンテンツ等の情報について、継続的かつ効果的な情報発信ができているか。 ・ホームページ等での情報発信を行うにあたって、PV 数等の水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ YU-NAなどサイクリングガイド事業は、まだまだ利用頻度も低く、今後の自立化にむけた取組が課題。 ■ 情報発信体制の見直しによる効果的な情報発信が目指されている点は高く評価できる。 ■ 日本遺産のストーリー（百景）に沿った情報発信を行うための工夫が求められる。 ■ これまでの取組の延長線上のものではなく、インバウンドをはじめとしたターゲットを明確にした具体的な情報発信手法を検討、実施できることを期待したい。

点数評価プロセス　採点結果及び評価結果

採点結果	37点 ※　最高点及び最低点を除いた平均点。
評価結果	重点支援地域に認定

令和６年度日本遺産点数評価プロセス
採点結果及び評価結果

STORY #016
古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（1）組織整備 ・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組み ・地域間連携の仕組み	・行政だけでなく、文化関係者や観光関係者（DMO 等）、民間事業者も参画した組織体制が構築されているか。 ・各関係者の役割は明確化されているか。中核となる組織又は個人が設定されているか。 ・組織の自立・自走に向け、継続的に事業を実施するための体制・財源は明確化されているか。 ・ふるさと納税など資金調達の実施にあたって、日本遺産事業に活かされる形となっているか。また、継続的に事業を実施するための財源として十分なものとなっているか。 ・（シリアル型において、）地域間で連携することにより、ストーリーの体験をより促すような相乗効果が期待される体制となっているか。
採点理由・コメント	■ 県主導の体制だが、シリアル型市町村のそれぞれの活動と事業面での連携体制のさらなる明確化が必要である。 ■ 地域活動ワーキングの設置により、エンジン部分が明確になった。 ■ 構成団体間の連携がないことが課題である。広域にまたがる市町をまとめるのは県しかないかもしれないが、行政のみに行動力を求めることは適当ではない。行政に代わる民間リーダーの現状における不在、今後それが育つかどうかが今後の課題であり、構成文化財の間の交通アクセスの難しさを克服する観光プロジェクトの立案も、これに連動している。 ■ 大宰府天満宮と九州国立博物館の集客を他地域へ広げていく意欲を持って取り組まれたい。
（2）戦略立案 ・地域コンセプト ・長期的戦略 ・マーケティング調査・戦略	・計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行っているか。 ・日本遺産の趣旨を踏まえ、各種行政計画と日本遺産の関係性を整理し、位置付けているか。 ・将来像の実現に向けた短期的・長期的な戦略の立案を行うため、ターゲットの設定を行っているか。 ・各事業の効果を把握し改善を行う仕組みが整備されているか。 ・日本遺産を活用し、実際に経済効果の創出までつながる取組が具体化された戦略が立案できているか。 ・地域の持続可能性を高めるため、日本遺産を活用していくというビジョンが定められているか。
採点理由・コメント	■ メインストーリーとサブストーリーの組み立て、４つのプロジェクトテーマなど、構想としてはよく書かれているが、これらの活動がどの程度実施できるのかについては、具体的な手法・事業を含めてさらに明確化が必要である。 ■ 地域活動ワーキングの設置が計画された点は評価できるが、ワーキングには多様な人材が参画し、地域の課題・ニーズの収集から新たな取り組みの反映までを行うとなっており、理念はよいものの、戦略的な視点で具体的にプランニングできるか不安が残る。 ■ 計画の記載内容を実現するための予算措置が十分かという点に疑問が残る。 ■ 構成自治体間の連携、構成文化財の連携を図るための総合的なコンセプトの創出が課題である。サブストーリーはかえって構成文化財ごとの分断を進めるかもしれない。地域活性化計画では改善がみられるが、依然として抽象性は残る。また、ターゲットに関する記載がないが、この点の検討が必要である。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（3）人材育成 ・地域プロデューサー ・地域プレーヤー （ガイド人材を含む）	・地域内で中長期的に事業に携わる人材の育成・確保ができているか。 ・外部の専門家によるコーチングや大学との連携による知見・ノウハウの提供、学校教育との連携等が行われているか。 ・総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーや事業実施を担う地域プレイヤーの組織化等が行われているか。 ・地域で活躍している人材・事業者との連携等が図られているか。 ・単なる観光ガイドではなく、ストーリーを来訪者に伝えるためのガイド人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。
採点理由・コメント	■ ４人の分野別コーディネータを置いているようだが、それぞれの役割分担や実際の活動状況が不明瞭である。また、シリアル地域のプレイヤー（ガイド等）をつなぐ活動も計画には盛り込まれているが、具体的な活動やその手法などが見えにくい。たとえば大学など含めた外部の力を活かすよう、取組みを工夫されたい。 ■ 地域活動ワーキングの設置は評価できるが、ワーキングを運営する地域コーディネーターが、地域プロデューサーとして大局的な視点でコンタクトをふれるのか、書面では少しわかりづらい。もし、コーディネーターはコーディネーターでプロデューサーではないということであれば、ワーキングの核となる人物の育成は必須。 ■ 計画の記載内容を実現するための予算措置が十分かという点に疑問が残る。 ■ 地域を連携し観光誘致に有効な総合コンセプトづくり（明快で質が高いプロモーションのためのフレーズ）とそれを担って走る人材の育成は一体のものである。この両者においてこれまでの取り組み状況、計画内容ともまだ行政主導にとどまる。
（4）整備 ・ストーリーを伝える仕組み ・サブストーリーの広がり ・構成文化財の継承	・ストーリーの体験に必要となる拠点や構成文化財等における受入環境整備（解説や案内の整備・多言語化等）が行われているか。 ・ストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等が整備されているか。 ・実施する事業にあわせて、宿泊施設や交通アクセス等の面的な整備が行われているか。 ・体験に直結するストーリーの一部についてサブストーリーを抽出して更に深く魅力を整理するなど、地域内外の人々に魅力が伝わるよう取り組んでいるか。 ・博物館をはじめとした地域の歴史・文化が集積している施設において、ストーリーの理解を促すための環境整備がされているか。 ・ストーリーを通じ、外国人観光客も含めた来訪者に地域の歴史・文化の本来の価値を理解してもらうため、わかりやすい解説を行っているか。 ・来訪者が地域に点在する拠点や構成文化財等を円滑に周遊できるような案内が整備されているか。
採点理由・コメント	■ ハード面の整備はそれなりに力が入っているが、コアエリアから周辺に誘導する魅力的なストーリーや仕組み、二次交通を含めた整備の状況が見えにくい。 ■ エリア分けをすることで整備の方向がクリアになった部分があるように思われるが、それが計画のなかに明瞭には見えない。 ■ これまでは、ストーリーの咀嚼が甘く、従前の文化財の説明に終始していた傾向があった。計画内容ではこの課題に対する配慮がなされているが、それが実行できる体制が整備されるか。今後の取組みに当たり、予算の効果に期待したい。 ■ ガイダンス施設等における日本遺産についての環境整備や解説、案内は、一部改善が見られるものの依然として不十分である。今後の取り組みに期待したい。また、地域を周遊してもらえる仕掛け、仕組みの整備が求められる。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（5）観光事業化 ・ストーリーの体験 ・経済効果の把握・創出 ・商品化の体制	・構成文化財を活用し、ストーリーを体現するような商品開発や産業の創造を行っているか。 ・地域内外の人々にストーリーを体験してもらえるようなガイドツアー、体験コンテンツ、関連商品の販売等を行っているか。 ・各事業の収益性及び継続性は見込めているか。地域への波及効果が生じているか。 ・経済効果につながるような日本遺産を活用した観光コンテンツの造成に取り組んでいるか。 ・造成した観光コンテンツを通じて生じる経済効果について、適切に把握できているか。
採点理由・コメント	■ 観光面では、圧倒的な集客を誇る九州国立博物館や太宰府天満宮の来場者が中心であり、観光集客等の実績数値よく見えるが、これらの来場者が「日本遺産ストーリー」をどこまで認識し体験しているのかが不明瞭である。また計画では、コアエリアから周辺に誘導する効果的な手法が十分記載されていない。 ■ 観光事業化の事業番号５－A「西の都」周遊促進事業において、「継続に向けた事業設計」欄が、「民間事業者等の協力も得ながら・・・」となっており、民間事業者は「協力」するにとどまる立場と位置づけられており、この点は不十分である。 ■ 案内板の設置は進んでいるようであるが、構成資産を連携する具体的な観光コンテンツが見えない。計画には盛り込まれているが、交通網の整備とも実際にどこまで進むか注視したい。 ■ 日本遺産が観光振興に生かされているとはまだ必ずしも言えないが、今後の取り組みに期待したい。
（6）普及啓発 ・学校を通じた普及活動 ・地域での高い認知度	・地域の児童生徒がストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供しているか。 ・地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、地域住民への継続的な普及啓発を実施しているか。 ・地域内の認知度を向上させていくにあたって、対象や水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 前回の総括評価・継続審査の結果を受けた活動は概ねなされている。しかし、住民からの認知度が依然として低い点は、これからの大きな課題である。 ■ 一定度の事業が実施され、また計画されている。 ■ 具体的な方途を含めて、地域住民のシビックプライドの醸成に向けての取り組みのさらなる充実が求められる。
（7）情報編集・発信 ・継続的な情報発信体制 ・顧客とのエンゲージメント	・ストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる情報についてホームページ等において情報発信を行っているか。 ・ストーリーや構成文化財、体験コンテンツ等の情報について、継続的かつ効果的な情報発信ができているか。 ・ホームページ等での情報発信を行うにあたって、PV 数等の水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 一定度の事業が実施され、また計画されている。 ■ たくさんのお客様に来ていただけている地域として、来ていただく（来る予定の）お客様への情報発信力及び今後に向けた計画はさらに充実させる余地が残る。

採点結果	31点 ※　最高点及び最低点を除いた平均点。
評価結果	日本遺産候補地域に移行する。 ■ 地域活性化計画及びコメント内容を踏まえ、取組みの一層の改善を図ること。特に、集客力の高いエリアから他の構成文化財等への周遊につなげる方策を検討し、実施するよう留意されたい。 ■ その上で、次々年度以後、日本遺産としての認定を改めて申請できることとし、その際には、認定地域（条件付）または候補地域と併せて相対評価を行い、上位の地域を日本遺産とする。

令和６年度日本遺産点数評価プロセス
採点結果及び評価結果

候補地域

北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽　～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

候補1　北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（1）組織整備 ・リーダーシップの発揮 ・ボトムアップの仕組み ・地域間連携の仕組み	・行政だけでなく、文化関係者や観光関係者（DMO 等）、民間事業者も参画した組織体制が構築されているか。 ・各関係者の役割は明確化されているか。中核となる組織又は個人が設定されているか。 ・組織の自立・自走に向け、継続的に事業を実施するための体制・財源は明確化されているか。 ・ふるさと納税など資金調達の実施にあたって、日本遺産事業に活かされる形となっているか。また、継続的に事業を実施するための財源として十分なものとなっているか。 ・（シリアル型において、）地域間で連携することにより、ストーリーの体験をより促すような相乗効果が期待される体制となっているか。
採点理由・コメント	■ 「新たな民の力」を活用する仕組みとなっているが、司令塔としての役割を担う部門が見受けられない点は改善の余地がある。 ■ 来訪する観光客の目線に立った整備を行うための体制が確立されているとは言えない。 ■ 産官学の連携体制が構築され、既に具体的な動きを進めていると評価できる。
（2）戦略立案 ・地域コンセプト ・長期的戦略 ・マーケティング調査・戦略	・計画の実施状況を把握し改善するため、協議会等における情報共有や協議を定期的に行っているか。 ・日本遺産の趣旨を踏まえ、各種行政計画と日本遺産の関係性を整理し、位置付けているか。 ・将来像の実現に向けた短期的・長期的な戦略の立案を行うため、ターゲットの設定を行っているか。 ・各事業の効果を把握し改善を行う仕組みが整備されているか。 ・日本遺産を活用し、実際に経済効果の創出までつながる取組が具体化された戦略が立案できているか。 ・地域の持続可能性を高めるため、日本遺産を活用していくというビジョンが定められているか。
採点理由・コメント	■ 取組状況としては、全体に積極的かつバランスよく活動が行われており、日本遺産認定に相応しい事業と言える。ただ、南運河に集中する観光客を、北運河や手宮車庫など北運河方面にも誘導する施策がまだまだ弱く、一過性の観光、滞在性の低さを十分克服できているとは言えない。またストーリーの根幹となった運河埋立論争を支えた世代が高齢化し、これらを次の世代がどのように継承していけるのかが大きな課題である。さらには、日本遺産「炭鉄港」ストーリーとの関連付け、空知など当該地域との実質的連携事業がどのようにできているのかをさらに明確化する必要がある。 ■ 長期的な計画はやや弱い（ぼんやりしている）ようにも感じるが、地域活性化計画の期間中での具体的な内容や展開は明確である。 ■ 戦略立案が形式的に過ぎ、既存のデータに頼りすぎている。 ■ 戦略に基づく具体的な動きも進んでおり、関連する日本遺産との相乗効果やすみ分けも意識されている。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（3）人材育成 ・地域プロデューサー ・地域プレーヤー （ガイド人材を含む）	・地域内で中長期的に事業に携わる人材の育成・確保ができているか。 ・外部の専門家によるコーチングや大学との連携による知見・ノウハウの提供、学校教育との連携等が行われているか。 ・総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーや事業実施を担う地域プレイヤーの組織化等が行われているか。 ・地域で活躍している人材・事業者との連携等が図られているか。 ・単なる観光ガイドではなく、ストーリーを来訪者に伝えるためのガイド人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。
採点理由・コメント	■ 運河論争以来の「民の力」が現在の小樽運河の活用に繋がっているが、若い世代・次の世代にも継承する取り組みは大きな課題だが、計画には一定程度よく書かれている。 ■ 取り組みも計画もよ地域プロデューサー、インタープリターの育成に力を入れており、その人的財産を利用する計画となっている点が評価できる。 ※小樽市では、2021年以降、47名の「小樽市日本遺産地域プロデューサー」を輩出したという。そのこと自体はよいことだが、小樽市のいう「地域プロデューサー」は他地域のそれとは意味合いが異なるようである。（1）ともかかわるが、一般的な意味での地域プロデューサー役のポジションを担う人材の登用・育成も必要であろう。 ■ 観光客が楽しんで豊かな時間が過ごせる視点が足りない。 ■ 人材育成WGを組成し、プロデューサー、インタープリター、ガイド人材の育成を地域の大学、学生を含めた幅広い年代での育成活動を具現化している。
（4）整備 ・ストーリーを伝える仕組み ・サブストーリーの広がり ・構成文化財の継承	・ストーリーの体験に必要となる拠点や構成文化財等における受入環境整備（解説や案内の整備・多言語化等）が行われているか。 ・ストーリーに関連する地域空間において、文化資源や景観・風景等が整備されているか。 ・実施する事業にあわせて、宿泊施設や交通アクセス等の面的な整備が行われているか。 ・体験に直結するストーリーの一部についてサブストーリーを抽出して更に深く魅力を整理するなど、地域内外の人々に魅力が伝わるよう取り組んでいるか。 ・博物館をはじめとした地域の歴史・文化が集積している施設において、ストーリーの理解を促すための環境整備がされているか。 ・ストーリーを通じ、外国人観光客も含めた来訪者に地域の歴史・文化の本来の価値を理解してもらうため、わかりやすい解説を行っているか。 ・来訪者が地域に点在する拠点や構成文化財等を円滑に周遊できるような案内が整備されているか。
採点理由・コメント	■ 観光客はほぼ南運河しか行かず、短時間型の観光になっている。旧三井銀行などを含む小樽芸術村（文化観光推進法に基づく拠点計画に認定。）など、南運河の整備はこれまでも進んでいるが、小樽製罐から南の日本郵船・手宮車庫など、小樽発展の原動力となった北運河を含む一体的な整備が今後の大きな課題である。 ■ 着実な整備の進展が見られ、計画についても、具体性がある。 ■ 日本遺産は、ストーリーや構成文化財の価値・意義を来訪者に伝えるための仕組みであり、そのための解説案内板の充実が基礎的な整備である。それが十分ではない中で、AR・VR・スマホ利用等の技術に傾倒した取組みは効果を見込めない。 ■ 民間企業の協力や、寄付金を活用しながら、ストーリーを伝える仕組みを構築しており、他の日本遺産ストーリーと重ねることで相乗効果をあげながら効果的に整備、継承を行っている。

評価表　採点結果（総計）

評価項目	評価の観点
（５）観光事業化 ・ストーリーの体験 ・経済効果の把握・創出 ・商品化の体制	・構成文化財を活用し、ストーリーを体現するような商品開発や産業の創造を行っているか。 ・地域内外の人々にストーリーを体験してもらえるようなガイドツアー、体験コンテンツ、関連商品の販売等を行っているか。 ・各事業の収益性及び継続性は見込めているか。地域への波及効果が生じているか。 ・経済効果につながるような日本遺産を活用した観光コンテンツの造成に取り組んでいるか。 ・造成した観光コンテンツを通じて生じる経済効果について、適切に把握できているか。
採点理由・コメント	■ ストーリーに描かれた価値を内外の来訪客にどのように伝えてきたのかといった点は一つの課題である。観光的な成功が「観光客数」だけに矮小化される傾向があったが、本来の運河の意味・価値・滞在性をどう活かすかといった点が一定程度意識されている。また、懸念していた旧北海製罐倉庫㈱第三倉庫の保全・活用とともに北運河を含む運河全体の活用と回遊性が課題であるが、この点も一定程度よく計画に盛り込まれている。また、既存の日本遺産「北前船」「炭鉄港」との連携も強く意識されている。運河論争以来の「民の力」を若い世代にも継承する取り組みなどもある程度できている。 ■ 多様な事業が開発されており、「民の力」を感じる。 ■ 観光事業化については、民間事業者主導で動いているように見えるが、行政も追認しながら、必要な取組や経済効果の把握・創出ができている。 ■ 小樽はすでに観光地として集客力のある地域であるが、その中でも、日本遺産のストーリーを十分に活かした取組みを進めるよう留意されたい。
（６）普及啓発 ・学校を通じた普及活動 ・地域での高い認知度	・地域の児童生徒がストーリーを理解し誇りに思えるよう、学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供しているか。 ・地域内において日本遺産の認知・関心を高め、誇りに思えるようにするため、地域住民への継続的な普及啓発を実施しているか。 ・地域内の認知度を向上させていくにあたって、対象や水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 多様なチャネルを利用した普及啓発に取り組んでいる。ただし、事業評価指標の「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」が２０２３年度実績値が６３．８％に対し、２０２９年度で６４．０％の目標値を設定しているのは、「民の力」を強化しようとする姿勢とのギャップが大きいように思われる。 ■ 産官学の連携した具体的な取組が見られる。
（７）情報編集・発信 ・継続的な情報発信体制 ・顧客とのエンゲージメント	・ストーリーに関する情報とともに、地域内外の人々が来訪する際に必要となる情報についてホームページ等において情報発信を行っているか。 ・ストーリーや構成文化財、体験コンテンツ等の情報について、継続的かつ効果的な情報発信ができているか。 ・ホームページ等での情報発信を行うにあたって、PV 数等の水準など、適切な指標を設定して取り組んでいるか。
採点理由・コメント	■ 一定度の情報発信の基盤整備がなされている。ただし、現時点で、小樽文化遺産ポータルの英語ページにとんでも「ページが見つからない」となり、また最新情報をポータルからは入手できない。継続的な更新や管理について改善の余地がある。計画には、プロデューサーが主体的に情報発信をするとあるので、改善されることを期待する。 ■ ホームページの整備の予算は著しく不足しているように見受けられ、情報発信の取組みは不十分であると評価される。 ■ HPでの情報発信手法に工夫が必要であるが、もともと発信力の高い地域であり、発信方法の工夫とともに、日本遺産情報が連動する形で効果を上げていくことが望ましい。

採点結果	40点 ※　最高点及び最低点を除いた平均点。
評価結果	日本遺産として認定